鳥獣害に強い地域づくりを目指して

～地域が一丸となって鳥獣害対策をしましょう～

農作物の収穫期である夏から秋にかけては、野生動物も動きを活発化させ、田畑や果樹園に甚大な被害を及ぼします。野生鳥獣を寄せ付けない環境づくりに最も重要な時期とも言え、またその環境づくりが来年の被害軽減につながります。家庭菜園も含め、収穫しない野菜や果樹などは野生動物とっては「おいしい餌」です。農業従事者だけでなく地域全体で話し合い、「集落の餌場」の価値を下げることが必要です。

鳥獣害対策マメ知識

集落の餌場

大根や白菜等豊作で不要になった農作物は、収穫せず畑に残しておくと、野生動物の「餌」になります。収穫後のナスやキュウリの株も例外ではありません。不要な作物は、早急に処理し、また、収穫後の茎なども引き抜きや切り取りってしまうことが必要です。

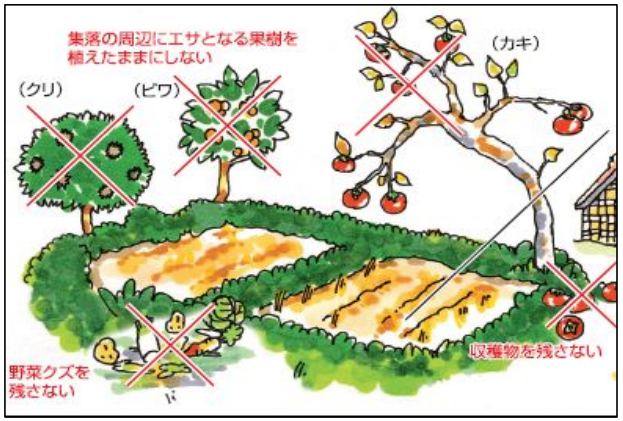
稲刈りが終わった田んぼもそのままにしておくと、落穂や雑草の新芽等が生え始め、それが野生動物の「餌」となります。稲刈り後はなるべく早く耕すことが必要です。

休耕地や耕作放棄地が田畑近くにあると、野生動物の隠れ場となり、また、雑草は餌にもなりかねません。地域全体で話し合い、協力し、地域の環境整備が必要になります。

【猿に荒らされた大根】

【稲刈り後の田んぼ】

【耕作放棄地】



集落には「餌場」があふれています。気づかずに与えている餌に人間が気づき取り除くなど、地域全体で取り組みましょう。